

平成20年度  
宜野湾市海外留学生派遣事業

## 留学報告書

棚原敏乃

## アモイ

中国福建省にあるアモイは皆さんもご存知の通り、中国経済特区に指定され、高層ビルや大型マンションなどの建設ラッシュが進んでいます。そんな経済発展都市アモイは、小さな島と大陸の一部からなり、気候も比較的沖縄に似ていることから、私にとってとても住みやすい町でした。しかし、冬の寒さは想像していたよりも厳しく、気温が10度以下になることもあります。また、世界的にも有名なコロンス島、別名「音楽の島」もあることから観光業で賑わっている都市でもあります。

## 一人っ子政策

中国では一人っ子政策が実施されています。中国に渡る前の私は、中国のほとんどの人が一人っ子で核家族化が進んでいるというイメージを持っていました。しかし、この一人っ子政策は1979年から行われているので、私の同年代、あるいはそれ以降でも兄弟や姉妹がいる人が多いのです。驚いたことに、私の友人の1人は8人兄弟の真ん中でした。厳しく制限されていそうな一人っ子政策ですが、各地域によってその厳格さは微妙に違います。授業を担当して下さった先生によると、中国南部や農村、少数民族においてはそんなに厳しく政策を施しているわけではないが、北京や上海などの大都市では厳しく制限されていて、罰金や公務員などの公職に就く権利を奪われたりもするのだそうです。私の何名かの友人もその理由によって市政府で働けないと嘆いていました。出産を促進している日本とは大違いです。

また、だんだん浸透し、成果を少しずつ上げている一人っ子政策ですが、いくつかの問題点も指摘されています。第一に、中国では古くから伝統的に伝わってきた親族の複雑な固有名称があるのですが、「一人っ子政策によって今後の子供たちはその伝統的な親族の呼び名を使うことがなくなる」＝「古くから受け継がれてきた中華民族の文化・風俗を伝承できなくなる」という風に捉える声も上がってきているのです。第二に、一人っ子政策によって、甘やかされてわがままに育った子供たちの増加も問題視されています。このことに関しては、中学、高校、大学の入学から一ヶ月を軍事訓練にあて、協調性、忍耐力を身につけようという試みが行われています。第三に、両親の子供への過度の期待によって子供たちが受けるプレッシャーも問題視されています。実際、学生が学業不振などで自殺をしてしまうという悲しい出来事も多々起きています。それら問題点を踏まえた上で、一人っ子政策を見直して欲しいと思いました。

## 中華料理

みなさんは中華料理といえば、油の乗った北京ダック、実の詰まった上海蟹、辛さが病みつきになる四川料理などを思い浮かべるでしょう。実際、その種類は多く中国の文化として、「中華八大料理」と呼ばれ、区別されています。山東省で発祥した山東料理は北京料理の原型で、香りがよくて塩辛い。江蘇料理は江蘇省で発祥、上海料理の原型で味は淡白。浙江省で発祥した塩辛くさっぱりとした浙江料理。飲茶やワンタンが有名な広東料理。山椒や唐辛子などの香辛料を使用する、痺れるような「麻辣」という辛さを味の中心にした四川料理。唐辛子をふんだんに使用した中国で一番辛いと言われている湖南料理。海鮮を多く使用していて淡白な味付けの福建料理。彩りと素材の持ち味を重視した脂っこい安徽料理。以上の八つが中国でも有名な八大料理です。四千年以上の歴史を持つ中国の、食文化の幅広さにも驚かされます。アモイは福建省に位置しているので、海鮮料理がとて有名です。私はこのアモイの特色的な海鮮料理が大好きで、生活担当の陳先生にいろいろなお店に連れて行ってもらっていました。陳先生は毎日忙しいにも関わらず、月に一回くらいのペースで私を食事に誘って下さり、私は毎回その食事会をとて楽しみにしていました。中華料理は多種多様で、いつも今日は何を食べようかと迷ってしまうほどです。残念なことに、私はまだすべての中華料理を食べていないので、いつか機会を作って制覇しようと思っています。

## 授業と学校生活

アモイ理工学院は、ここ数年の間で急激に規模を拡大したこともあり、まだ留学生がいません。少し寂しい思いをすることもありましたが、私がアモイに渡った時から留学生の校舎も島から少し離れた大陸側に移動することになり、新キャンパスの第一号留学生として、日々勉強に勤しんでいました。授業は一対一で、月曜日から金曜日までの週18時間組まれており、内容は「中国語会話」や「リスニング」、「中国文化」など、基礎から応用まで私の学習成長に合わせてカリキュラムを組んで頂きました。学生1人に先生が付きっきりで教えて下さるので、他大学の留学生より比較的しっかり勉強出来ました。一対一の授業なので、先生方ともすぐに仲良くなり、授業以外では友達や兄弟、姉妹のように遊びに行ったりもしていました。彼らは私にとって、中国のお兄さん、お姉さんのような存在で、本当に感謝しています。

また、学生たちもとても活発で私の生活が落ち着くとすぐに食事やショッピングに誘ってくれたりしました。彼らも困ったことがあるとすぐに駆けつけて

助けてくれたり、私がホームシックになった時は一緒に遊びにいつてくれたり、本当に良い友達が出来て、彼らのおかげで毎日楽しく過ごすことが出来ました。親友と呼べるような友人も出来、春休みやゴールデンウィークなどには彼女たちの実家にホームステイさせてもらったり、寮で一緒に料理を作ってパーティーをしたりとたくさんの思い出が出来ました。

## 中国の正月

中国は旧暦を現在も使用して年行事を行います。中国の人々にとって、1月半ば頃の「旧正月」が一年で一番大きな行事、「お正月」に当たります。学校も一ヵ月半の春休みに入り、街のいたるところではお正月ムード満点のイルミネーションで賑やかに飾られています。人々も浮き足立って、新年の訪れを今か今かと待ちわびています。私はこの頃、中国のお正月を経験するために、親友の家にホームステイさせてもらっていました。彼女の実家は四川省の「楽山」というとても寒い所がありました。アモイから列車に揺られること40時間、やっと四川省に辿り着き、そこからまたバスで4時間程揺られてやっと友人の家に着いた時にはクタクタに疲れ果てていました。何日もかけてアモイから離れて四川省まで行ったことで、初めて中国の広さを肌で実感したのです。アモイに比べると少し田舎の楽山も、お正月に向けての準備で町全体が綺麗に飾りつけされていました。そして友人の家族も正月が来るのを今か今かと待ちわびていて、私も正月の2、3日前からとてもワクワクしていました。そして、大晦日、家族みんなが集まり宴が始まります。家族みんなご飯を食べながらお酒を飲み、いろいろとお喋りをして盛り上がっていました。彼らは本当に幸せそうので私も故郷沖縄の親戚の家に遊びに来たような気分になってとても楽しんでいました。深夜0時になると、町のあちこちから「パンパン」と爆竹が鳴り、空は360度どこを見渡しても一面花火につつまれていて、とても幻想的でした。感動いっぱいの私はずっと空を眺めていたのを覚えています。それからの三日間ほどは親族の家などを訪ね、毎日お正月を祝う宴会で楽しみました。中国のお正月は本当に賑やかで楽しく、本当に良い思い出になりました。

## 留学を振り返って

留学生生活を終え、アモイから沖縄に帰った時に家族や友人に一年振りに会えることの嬉しさと同時に、また故郷から離れるような寂しさも感じました。その時、私にとってアモイは第二の故郷なのだと実感したのです。飛行機の中で走馬灯のように一年間の留学生生活を思い返していました。親元から離れたこと

の無かった私が両親から離れ、初めて訪れる異国の地で生活することで家族や友人のありがたさを身にしみて感じました。アモイでの生活に中々慣れず、母に毎日のように電話をしたこと。その度に励まし、応援してくれた家族。私のホームシックを紛らわそうと、何度も遊びに誘ってくれ、いつも一緒だった友人たち。時には厳しく、時には優しく私を指導してくれた先生方。まだ中国語の出来ない私にいつも話しかけてくれた学食のおばさんたち。私の生活をサポートしてくれた先生方。私のことを娘のように扱い、たくさんの事を教えてくれた陳先生、そしてその家族のみなさん。いろいろと語り合った同じ国の友人たち。そして、こんな素敵なチャンスを与えて下さり、沖縄からいつもサポートしてくれた宜野湾市役所の皆様方・・・私の一年の留学は周囲の人に支えしてもらったからこそ素敵なものに出来たのだと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。中国語の習得のみならず、生活面、物事の捉え方から精神面における強さまで、全てにおいて成長することが出来たと思います。また、この一年で漢語水平考試において7級を取得するという自分でも満足のいく結果を残せたことで、中国語の会話力や成長にも自信を持つことが出来ました。この留学で学んだ事をずっと忘れずに、新しい気持ちを持って、今後も頑張ろうと思いません。宜野湾市の皆様方、このような素晴らしい機会を与えて下さって、本当に感謝しております。私は今後この留学経験を活かし、アモイのみに留まらず、中国と沖縄の友好の架け橋として、何か皆様のお役に立てるような事がしたいと思っています。本当にありがとうございました。

平成 2 0 年度宜野湾市海外留学生派遣事業 報告書資料

